

朝日求人

仕事力

「君の原動力は見つかったか？」

安藤忠雄が語る仕事

1234

心の中の不況を追い出せ

仕事の閉塞感
状況のせいにしてない

感動が仕事に活きる

就職が厳しい、仕事がないというのは苦しいことです。政府もマスコミもさまざまになだめたり脅したりしますが、若者はこの現状に不安を抱えているに違いありません。

しかしその前に、自分は本当に仕事と人生を真剣に考えているのかと、もう一度見つめ直して欲しいと思います。真っ暗闇に見えても、何か、どこかに光はあるはずなのです。感覚を研ぎ澄まし、その光の方向へ歩いていくのだという、強い前向きな覚悟を持って欲しい。

私は学歴もなく、資金もなく、何の基盤も信用もないところからのスタートでした。でも人との出会いには恵まれていたと思います。思い出すのは中学校時代の数学の先生です。猛烈に熱心な教師で、授業中たるんでいるとチョークが飛んでくる、スリッパが飛んでくる。この真剣さは何だろうと何度も考えましたが、自分が仕事に取り組みようになつて分かったのは、責任と誇りがあるからだということだと思います。私にいろいろなことを教えてくれた大工さんも、とにかくよく怒りましたが一心不乱に働いていました。

仕事に対する気迫、まずそれが一番にあるべきで、条件とか雰囲気とか、周囲の思惑に一喜一憂している暇はないと思います。私は、日本の若者にそのことに気付いて欲しいと期待しています。地球上の同じ時代を生きている若者を見れば、現代の日本ではどんな仕事の冒険をしても、命や家族に差し障りが出ることとはほとんどないのですから。

若い頃から知識詰め込み型の教育を受けてきた人間は、知識の総量を増やすことによって大学受験などに勝ち抜く感動は味わえます。しかし、日々の中で深く心を揺さぶられるような経験が人間を豊かにしていくのです。私は中学生の頃大工さんにカンナの使い方を習いましたが、ひっかかったり分厚くなったりして、まったく思うようにはできませんでした。初めて、すうっと透き通るほど薄く木を削れた時のうれしさは忘れられません。そんな小さな感動でもいいのです。人間は何かを追い求めて、それを成し得た達成感を忘れないものです。

変革の時代には誰が戦力になるかわりませんが、美しいものを見たり、人の言葉や生き方に心を動かされたりした感動も、心に堆積して、生きていくエネルギーになります。今はビジネスの場外にいても、固定観念になっている就業の制限や社会の条件が変われば、敗者復活戦が起きてくるでしょう。望む仕事に就けなかった若者や、映画や旅行にと文化を謳歌している主婦たちも、いい戦力になる可能性を秘めているのです。守られ、既成の価値観を植え付けられて、「仕事はサバイバル」という実感をいまだに持てない若者は多い。でも、周りを見、歴史を学び、そして世界に意識を向けて前に進んでいく心の火がともることを願っています。まず動き始めて、歩きながら考えて力を付けていけばいいのです。誰も失敗する若者を笑わないし、責めはしない。とにかく動いて、人生の喜怒哀楽の感動をたくさん体験し、誠実に仕事に向き合ってください。と願っています。

(談)